

令和2年度 事業計画・収支予算

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

歴史街道推進協議会

令和2年6月

目 次

令和2年度事業計画・収支予算（案）の概要	…… 1
Ⅰ. メインルート事業	…… 3
Ⅱ. ネットワークエリア事業	…… 4
Ⅲ. 日本文化体感プログラム事業	…… 5
Ⅳ. フォーラム・展示事業等	…… 8
Ⅴ. 歴史街道倶楽部事業	…… 9
Ⅵ. 広 報	…… 1 1
Ⅶ. 各種の受託研究・受託事業などの実施	…… 1 3
Ⅷ. 協議会運営	…… 1 3
令和2年度 事業支出予算（案）	…… 1 5
令和2年度 収支予算書（案）	…… 1 6

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、5月末までのイベントは中止または延期となっております。また、6月以降のイベント等も、状況により中止・延期になる場合があります。

令和2年度事業計画・収支予算（案）の概要

令和2年度は第9期計画の最終年度にあたります。各種展開事業の中から、国内向けとインバウンド向けに主力事業となりうるものをそれぞれ絞り込み、拡大・強化を取り組み方針に掲げ、メインルートを基軸とする広域官民連携による当協議会の柱となる事業の構築を目指してまいり所存です。また、他団体との連携強化、シンボルステッカー等のメンテナンス、会員団体のHPでの歴史街道バナーの掲出協力依頼にも継続して取り組んでまいりたいと考えております。

しかしながら、ご承知の通り、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、やむなく各種事業を延期・中止・縮小せざるを得ない状況にあります。

こうした状況の中、本年度事業につきましては、下記の通り取り組んでまいりたいと考えております。

記

1. メインルート事業

歴史街道の魅力を広範に発信すべく、メインルート上において広域かつ官民が連携して取り組むべき事業に注力するとともに、メインルート上の6拠点が一堂に参画できる事業の構築を目指しております。

具体的には、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら、メインルートを結ぶ地域の関係者間の協力体制の強化を図り、各地域間連携事業と昨年度復活した「歴史街道スタンプラリー」の実施に取り組んでいきたいと考えています。

2. ネットワークエリア事業

南北近畿エリアの活性化と「世界文化遺産」地域連携会議等との連携を事業方針に掲げ、WEB、後援等の広報活動を中心にネットワークエリアの発信を行ってまいります。

3. 日本文化体感プログラム事業

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けるJICA向け研修については、当初50本と計画した研修を26件に修正しておりますが、未だに海外からの研修生受け入れ再開時期を見通せない状況です。

しかし、新型コロナウイルス収束後のインバウンド需要回復に向け、その準備として、関西観光本部、大阪観光局、日中経済貿易センター、旅行会社や財団等との連携により、海外企業の視察・研修旅行やインセンティブツアー、海外の教育機関からの教育旅行等への本プログラムの組み込み提案・広報を実施してまいります。

また、8月～11月に実施を予定していた首都圏留学生向け研修（万博基金助成金）も、来年度に繰り越さざるを得ない状況ですが、新型コロナウイルス感染予防を十分に施したルート作成ならびに事業の詳細決定を準備し実施に備えます。

高校生向け研修（子どもゆめ基金3件、中島国際記念基金1件）、中華圏向け開拓についても、各事業団体や各自治体と協議しながら進めてまいりたいと考えております。

なお、首都圏でのガイド向けセミナーについては、例年冬に開催しますので、来年の2月または3月頃の実施に向け準備してまいります。

4. フォーラム・展示事業等

地域にある歴史・文化遺産等につわる見聞を通じて地域の伝統・文化を学ぶ機会を積極的に提供することで歴史街道の存在価値を示していきたいと考えております。資料記載のものにつきましては、これまでも好評を得ているため、本年度も引き続き実施を計画しておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、実施時期や実施方法を検討して参ります。特に、その影響を大きく受けるフォーラムに関しては、共催団体と開催に関して慎重に検討してまいります。

5. 歴史街道倶楽部事業

本年度も、歴史街道計画実現のための応援団として、かつ当該計画の検証機能を果たすための組織であるという位置づけに沿った活動を計画してまいります。新型コロナウイルス感染症の影響で、6月までのイベントは中止または延期せざるを得ない状況です。また、毎年実施しておりました海外ツアーについては、すでに本年度中止を決定しておりますが、倶楽部会員皆様のニーズを吸い上げながら、イベント再開に向けた準備を行ってまいります。

会員誌『歴史の旅人』は予定通り年4回発行し、関西圏および首都圏の公共図書館や関係団体の文化施設等に寄贈。閲覧誌として多くの方々の目に触れるよう、引き続き取り組んで参ります。また、他団体とも連携を図り、新規会員の獲得と既存会員の維持に努めてまいります。

6. 広報事業

歴史街道計画の知名度向上、理念訴求ならびに歴史街道ブランドの価値向上を図るとともに、歴史街道各地の魅力を発信することに努めてまいります。

情報発信は、マス媒体を基本として、歴史街道iセンター（38か所）の活性化や歴史街道シンボルステッカーならびにWelcomeボードのメンテナンスにも引き続き取り組み、露出の強化を図ってまいります。

また、2019年3月にリニューアルしました協議会HPを最大限に活用した情報発信を行う一方、YouTube動画「旅の星」やFacebook、メールマガジンなどの充実を図り、広報ネットワークとして、人的ネットワークの強化、情報発信拠点の拡充に努めます。

特に、本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した上で、他団体との連携強化による広報面での相乗効果を図る一方、首都圏でのフォーラムや展示会の定例開催、広報物等の定例配布など首都圏広報の強化に努めてまいります。

7. 令和2年度収支予算（案）

事業活動収入は、退会や休会等による会費収入の減少や新型コロナウイルスの影響による倶楽部イベントや日本文化体感プログラム研修の見送りにより、前年度予算比1,147万円減少の6,749万円といたしました。

一方、事業活動支出も、新型コロナウイルスの影響によるイベント事業の見送りによる広報費が前年度予算比729万円減の3,730万円を計上した結果、同予算比1,098万円減少の6,571万円といたしました。

これらの結果、事業活動収支差額は178万円となり、4,301万2千円を予備費支出として計上いたしました。

以上

I. メインルート事業

(事業目的・方針)

歴史街道の魅力を広範に発信すべく、メインルート上において広域かつ官民が連携して取り組むべき事業に注力するとともに、メインルート上の6拠点が一堂に参画できる事業の構築を目指す。

(事業項目)

1. 地域連携事業

(1) 伊勢～飛鳥間連携事業

- ・日本風景街道「伊勢街道」連絡協議会や沿線自治体と共催で講演会等を実施する。
- ・秋以降に阪急たびコト塾でのセミナー、街道ウォーク等を関係団体と連携して企画、実施する。

(2) 飛鳥～奈良～京都間連携事業

- ・エリア内の会員団体とのワーキングを開催し、これまでの講演会やリレーウォーク、旅行会社との連携事業を振り返りながら、新たなテーマを設定し事業を実施する。

(3) 西国街道連携事業（京都～大阪～神戸間）

- ・エリア内の会員団体と連携し「魅力再開発 西国街道」事業を展開する。
- ・連携博物館、資料館のニーズを調査し、共同広報等を試行する。

(4) 京街道・淀川左岸地域連携事業（京都～大阪間）

- ・京阪ホールディングスや当該地域の自治体の協力を得て、「京街道ウォーキングマップ」を改訂した。

(5) 観光ガイド組織との連携事業

- ・大阪・奈良歴史街道リレーウォークと当協議会が毎年実施している歴史街道定点案内事業を合わせて、歴史街道エリア各地の観光ガイドのイベントや活動を広域に情報発信するなど、昨年度に続き積極的に連携を図る。
- ・総合パンフレットは、秋以降、観光ガイドの活動が再開した後に作成し、関西の鉄道会社各駅へ配架する。

予算 1,670 千円 (R 元:1,700 千円)

2. 地域共同事業

(1) 歴史街道スタンプラリーの実施

- ・自治体および沿線5私鉄の共同事業の一環として、歴史街道の周遊性促進・寺社ネットワークの向上を目指す。
- ・令和元年度から歴史街道スタンプラリーと5私鉄スタンプラリーを統合し、関西の周遊促進と実施期間を拡大して再開した「歴史めぐりスタンプラリー」を5月31日まで実施する。

- ・本年度は、「歴史街道スタンプラリー お城めぐり編」(仮)を秋以降に実施すべく5私鉄、関係自治体等と協議をしていく。

予算 4,000千円 (R元:4,500千円)

II. ネットワークエリア事業

(事業目的・方針)

1. 南北近畿エリアの活性化
2. 「世界文化遺産」地域連携会議等との連携

(事業項目)

1. 関西を南北3つに分けた連携推進＝南北近畿の振興

事業項目	歴史街道2号 (紀伊山地の霊場と参詣道)	歴史街道3号 (北近畿・琵琶湖 食と歴史の回廊)
1. 地域整備・まちづくり・ルート形成	歴史街道モデル事業<田辺市(本宮地区・口熊野地区)、橋本市、新宮市、那智勝浦町、高野町、紀の川大和街道地区、吉野町、西熊野街道周辺地区(五條市、天川村、十津川村、野迫川村)の継続充実を目指し、各地事業のフォローアップや国への要望活動に取り組む	①「環状高速」による地域連携支援と、歴史街道モデル事業<大津市、甲賀市、近江八幡市、彦根市、南越前町(今庄地区・南条地区)、あわら市、永平寺町、北丹後地区、口丹後地区、豊岡市、朝来市、丹波市、篠山市、高槻市、乙訓八幡地区)の継続・充実を目指し、各地事業のフォローアップや国への要望活動に取り組む ②日本風景街道「琵琶湖さざなみ街道・中山道」の活動充実を図る
2. キーパーソン・ネットワーク	「紀伊半島交流会議」メーリングリストを活用し、メンバーとの交流に努める	北近畿「観光まちづくり回廊」メーリングリストを活用し、メンバーとの交流に努める
3. 地域施設等ネットワーク	観光案内所(33か所)や道の駅等とのネットワークの維持に努める	観光案内所(33か所)や鉄道駅、博物館・資料館、伝統的建造物群保存地区とのネットワークの維持に努める
4. ツアー	歴史街道倶楽部などと協働し、各地ツアーを実施する	
5. 広報活動(魅力整理)	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの聖地、4つの絶景、5つの古道、6つの温泉、7つのパワースポットの告知に努める ・後援活動を通じた広報効果を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・北近畿・琵琶湖 食と歴史の回廊各エリアごとの「1日コース」や「5泊6日フルコース」の告知に努める ・後援活動を通じた広報効果を増やす
6. 広報活動(イベント・シンポジウム展示)	<ul style="list-style-type: none"> ・「紀伊山地三霊場フォーラム」の継続開催 ・会員団体、関係団体が開催するイベント等への協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・「琵琶湖さざなみ街道・中山道」の活動におけるイベント・シンポジウムへの協力 ・会員団体、関係団体が開催するイベント等への協力
7. 広報活動(新聞、雑誌等)	<ul style="list-style-type: none"> ・会員誌『歴史の旅人』や鉄道会社パンフレットなどにおける情報発信に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・「QRコード入りMAP」の引き続きの普及 ・会員誌『歴史の旅人』や鉄道会社パンフレットなどにおける情報発信に取り組む
8. 映像	ケーブルTV番組の制作や旅の星 映像の蓄積に努める	
9. HPでの情報発信	11言語HP https://kiimountainrange.com/	10言語HP https://www.rekishikaido.gr.jp/worldheritagejpn/kitakinki/ の改訂を行う
10. メディアとの関係強化	マスコミに対して、協議会の事業理解と共同企画の実現を働きかける	

2. 中央部（メインルート以外）

播磨地域、南大阪地域を中心に、会員誌『歴史の旅人』や鉄道パンフレットなどを中心とした情報発信に努める一方、歴史・文化に資する活動に対して積極的に後援活動を行い、後援イベント等の告知チラシの配布協力など広報効果を増やす。

3. 「世界文化遺産」地域連携会議等との連携

遺産毎の事業推進、国への要望活動等を連携して行っていく。

予算 700 千円 (R 元: 800 千円)

Ⅲ. 日本文化体感プログラム事業

(事業目的・方針)

本プログラムの実施により、グローバル人材の育成と周遊人口の拡大、外客誘致（インバウンド）効果を目指すため、講義コンテンツおよび体験型活動の充実、多様なニーズに対応するパッケージ提案力の強化、実施体制の整備に取り組む。

(事業項目)

1. 日本の歴史文化を伝える講義コンテンツの充実および体験型活動の充実

- (1) 日本政府が招致した外国人に対し、英語のみならず、その母国語で日本文化を伝えるコンテンツの充実
- (2) 社員・職員向け、学生向け、一般向け等、研修目的にマッチした講義資料の整備、および体験型活動の拡充
- (3) 講義資料・現地体験内容のこまめなアップデート等定期的な講師・ガイドミーティングを開催し、講義資料の改善や情報共有を実施
(年2回(提案→審議→共有)を目安に、必要に応じて追加開催)

2. 顧客の多様なニーズに対応するパッケージ(講義と体験型活動)提案力の強化

- (1) 海外（インバウンド）向けプログラムの充実
 - ① J I C A（国際協力機構）が招聘する海外からの研修員に日本の歴史文化を紹介するプログラム（講義・現地体験）については、新型コロナウイルスの影響により、海外からの研修生受け入れ再開時期を見通せない状況であるが、J I C A および P R E X 等研修事業者との連携を維持し、年間約 26 件の目標とする。
(※第9期中期計画：インバウンド既存事業)
 - ② 新型コロナウイルス収束後のインバウンド需要回復に向け、本年度はその準備として、関西観光本部、大阪観光局、日中経済貿易センター、旅行会社や財団等との連携により、海外企業の視察・研修旅行やインセンティブツアー、海外の教育機関からの教育旅行等への本プログラムの組込み提案・広報を実施する。
(※第9期中期計画：インバウンド新規事業：日本文化体感 P G R 版ツアーの基盤作り 国内新規事業：教育旅行コンテンツの基盤作り)

(2) 国内向けプログラムの充実

①企業等におけるプログラムの実施

- ・大手企業の海外赴任者向けの事前研修に組み込める講義内容を、関西企業に限らず全国の企業に向けて広報活動を行う。
- ・会員企業・団体向けの研修や体験会の実施、新規研修事業者向け講座等の実施拡大も目指し、継続的な新規開拓を進める。特に海外から来日研修を実施する大手企業を対象とする。(目標：年間1件)

(※第9期中期計画：国内既存事業)

②大学、高校などにおけるプログラムの実施

2025年の大阪・関西万博開催時に国際交流の主役として活躍が期待される現在の大学生、高校生に向けたプログラムを積極的に推進し、国内において、若い世代の国際交流を積極的に後押しする。

- ・8月～11月に実施を予定していた首都圏の留学生を対象とした日本の歴史文化を体感するプログラムは、来年度に繰り越さざるを得ない状況ではあるが、本年度中に、新型コロナウイルス感染予防を十分に施したルート作成ならびに事業の詳細決定を準備する。

◎候補ルート

- －熊野古道を巡るルート
- －歴史街道メインルート Part1(伊勢～明日香～奈良～京都)
- －歴史街道メインルート Part2(京都～大阪～神戸)

このプログラムでは必ず関西在住の観光を専攻する日本人学生にも参加を募り、ルート設定やガイド体験など、関西の魅力を再発見し自ら発信する経験をしながら留学生との交流を行う。なお、熊野古道を巡るルートについては、和歌山大学観光学部の学生の参加を予定。

- ・地元高校生の国際交流を推進すべく、関西に留学している大学生、日本語学校の学生を交えて歴史文化を体感するプログラムを実施する。

◎候補地

- －堺の魅力地元高校生が英語で案内
- －地元市町村(大阪府下)の魅力地元高校生が英語で案内
- －地元市町村(奈良県下)の魅力地元高校生が英語で案内
- －大阪のグローバルトップ10ハイスクールと留学生との交流

(場所は選定中)

- ・地元高校生たちが地元の魅力を再発見し、案内するルートや内容を自ら企画し、プロの通訳ガイドの意見を参考に外国人に伝えるための英語の表現力を身につけ、留学生を案内しながら交流を行う。

(※第9期計画：国内既存事業)

③通訳案内士、一般向けプログラムの実施

- ・関西の魅力を伝えていただく通訳案内士への情報提供を目的に、関西観光本部と共催で、首都圏、関西それぞれにて本プログラムを展開する。旅行閑散期となる12月～翌3月に首都圏、関西にて2回程度実施する。
- ・国際イベントが続く関西において、ワールドマスターズゲームや万国博覧会などのスタッフやボランティアへの教育研修に、本プログラムの活用を積極的に働きかけていく。

3. 実施体制の整備

- (1) 講義講師の育成、人材確保と多言語対応力の強化
 - ・講師8名（内部2名、外部6名）体制にて継続運営中
 - ・講義言語は、日本語、英語、スペイン語、フランス語、中国語を常時対応。
資料は、国連公用語を軸に翻訳版を整備
常時更新（日本語、英語、スペイン語、フランス語、中国語）
必要時更新（ロシア語、アラビア語）
- (2) 会員企業・団体、地域ガイドなどの協力体制整備
 - ・状況に応じ、地域ガイドと協業
- (3) ガイドのレベル維持に向けた通訳案内士との協力体制の強化

4. 日本文化体感プログラムの積極的な国際発信と国内広報

- (1) フォーリンプレスを通じた国際発信
 - ・留学生との交流プログラムでは、参加留学生の出身国プレスを主な対象とした広報活動を積極的に進め、プログラム開催地の知名度向上に資する発信を行う。
- (2) 地元紙を通じた活動内容の周知
 - ・プログラムを実施する地域の方々に向けた発信を行うことで、協議会の活動への理解を深めていただく。
- (3) WEB、SNSを活用した発信（協議会HPの更新とあわせて実施）
 - ・コース案の提示
 - ・事業実績の紹介
 - ・フェイスブック、ツイッター、インスタグラムを通じた即時性のある英語での発信
- (4) 展示などを活用した発信
 - ・道の駅、歴史街道iセンターを活用したインバウンド向けPR展示
（巡回・パッケージ作り）
 - ・地域のガイド団体との連携＋全国通訳案内士との連携
メインルート6拠点におけるガイド講習会の実施

予算 4,000千円 (R元:6,530 千円)

IV. フォーラム・展示事業等

(事業目的・方針)

地域にある歴史・文化遺産などにまつわる見聞を通じて地域の伝統・文化を学ぶ機会を積極的に提供することで歴史街道の存在価値を示す。

(事業項目)

1. 大阪府立中央図書館共催講演会&展示

7月1日(水)～7月26日(日)に「城」「城下町」をテーマに実施する。

ただし、展示期間中、関連テーマに基づき企画した2回の講演会は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため見合わせる。

2. 歴史文化遺産フォーラムの開催(文化庁地域文化創生本部、関西広域連合共催)

例年、関西の歴史文化遺産をテーマにフォーラムを実施しているが、新型コロナウイルスの影響により、本年度は共催団体と実施体制を慎重に検討する。

3. 紀伊山地三霊場フォーラムの開催(紀伊山地三霊場会議共催)

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」をテーマにしたフォーラムを開催する計画であったが、新型コロナウイルスの影響を考慮し開催を見合わせる。

4. 各種展示

(1) 「親子で楽しむ宇治茶の日」展示ブース出展

(2) 道の駅での展示

※上記以外でも関係団体などの依頼に応じて、適宜検討、企画、実施する。

5. 子ども向け(小、中学生)プログラム

(1) 目的

- ①次代を担う子どもたちに日本の歴史や文化に親しみを持ってもらいたい
- ②関西圏の集約された歴史文化遺産を知ってもらいたい
- ③生涯を通じて歴史文化の現地を旅してもらいたい(現地に触れてもらう)

(2) 開発

①奈良教育大学などの教育機関や地域の文化施設、観光ガイドなどとともに、新しい企画を開発し、試行する。

・奈良教育大学連携(親子プログラム)



4月25日(土)

「奈良の鹿をシカと見よう」

40名募集

奈良教育大学次世代教員養成センター2号館多目的
ホールおよび奈良公園内鹿苑

※新型コロナウイルスの影響を考慮し、実施見合わせ



6月6日(土)

「大和郡山市の金魚とお城」

40名募集

大和郡山市三の丸会館および郡山城跡など

※新型コロナウイルスの影響を考慮し、実施見合わせ

②自治体などで実施する事業の情報を収集し、新企画開発に活かすとともに、データベースの蓄積を図る。

(3) 普及

パッケージ化されたプログラムを教育関係者などに活用いただけるようツールとして公開する。

6. 阪急たびコト塾の活用

(1) 大阪会場(梅田阪急グランドビル30階)

・伊勢～飛鳥間連携事業のセミナーを開催

ただし、上半期は、新型コロナウイルスの影響を考慮し、開催を見合わせる。

※同会場でのセミナー開催による情報発信を月1回実施する。

(2) 東京会場(新橋KHD東京ビル2階)

・歴史街道ワンコイン講座「『東海道五十七次』の魅力と見所」を前年度に続くシリーズ企画として、9月以降に開講する。

予算 2,750千円(R元:2,950千円)

V. 歴史街道倶楽部事業

(事業目的・方針)

歴史街道計画実現のための応援団であり、かつ当該計画の検証機能を果たすための組織であるという位置づけに沿った活動に注力するとともに、運営収支の改善を図る。併せて、首都圏における情報発信・活動を強化し、首都圏での認知度向上・会員増を目指す。

(事業項目)

1. 会員誌『歴史の旅人』の発行

(1) テーマ、地域を選定した特集を設定し、春号、夏号、秋号、冬号の年4回発行。

(2) 会員誌の有効活用

昨年度に引き続き、公共図書館や関係団体の文化施設等に寄贈し、閲覧誌として多くの方々の目に触れるようにする。首都圏での展開拡大を図る。

2. イベント

(1) イベントの実施

新型コロナウイルスの影響でイベントの中止・延期をせざるを得ない状況ではあるが、京の旅（夏・冬）、歩いてたどる歴史街道の旅シリーズ、五感で体感！にほん文化シリーズ（近鉄文化サロン共催）など人気イベントの継続実施に加え、会員誌の特集地域での実施、伝統芸能鑑賞会、セミナーなど、旬のテーマや会員のニーズに沿った、「歴史街道ならでは」のイベントを新型コロナウイルス収束後の再開に向け準備し、実施に備える。

(2) オープンイベントの実施

新規会員獲得につながるよう、オープンイベントを実施し、参加間口を拡大する。

(3) 首都圏企画の継続開催と強化

奈良まほろば館共催セミナー、伝統芸能鑑賞会、歴史ウォークを継続して開催するとともに、新たな共催セミナーの開催などで、首都圏での認知度向上と新規会員獲得を図っていく。協議会会員団体の東京事務所等に働きかけ、施設等での協議会情報発信を依頼する。

(4) 他団体との連携

近鉄文化サロン、近畿文化会、奈良まほろば館との共催講座に加え、他の会員団体とも連携を図る。

3. 会員増強

(1) 入会促進キャンペーンの実施

新規会員獲得を目指し、入会金無料キャンペーンを実施する。

(2) 特別賛助会員募集

より深く歴史街道を支援していただくため、入会促進キャンペーンにあわせて、特別賛助会員の募集を行う。

(3) イベント会場での会員募集

歴史街道推進協議会および協議会会員団体が実施する講演会、展示、ウォーク等の会場で会員募集を行う。

(4) 協議会会員団体における各種媒体での情報発信、入会案内チラシ配架、OB会等への働きかけ

協議会会員団体のイントラネット、関連雑誌、フリーペーパー等での会員募集記事の掲載や、各団体のOB会等において歴史街道倶楽部会員の募集を行う。また主要駅等での入会案内チラシの配架を依頼する。

4. Webによる積極的情報発信

Webサイト・SNSを有効に活用し、積極的な情報発信を行う。

5. ボランティアスタッフ

スタッフ会議への参加、会員誌『歴史の旅人』の編集企画、原稿執筆、イベント企画、運営のサポートをしていただくボランティアスタッフを随時募集する。

- ・定例会議の開催：年4回開催（4月（中止）、7月、10月、1月）
- ・テーマ別会議：随時開催
- ・フォーラム活動：歴史街道倶楽部会員が、自らテーマを設けて運営するグループ。「フォーラム活動」等を通じて、口コミによるPR活動を展開。活動中のフォーラムは「湯けむりの仲間」、「鉄道廃線フォーラム」、「歴史街道倶楽部脇本陣」、「やまとに恋して」。

令和2年度新たに「ローカル鉄道応援団」、「ローカルバス応援団」が活動を始める。

予算 10,520 千円 (R元:17,020 千円)

VI. 広 報

(事業目的・方針)

歴史街道計画の知名度向上、理念訴求ならびに歴史街道ブランドの価値向上を図るとともに、歴史街道各地の魅力を発信する。

(事業項目)

1. 情報発信

(1) マスコミ、関係者向けの情報提供

- ①メールマガジン「歴史街道なう」（毎月第4木曜日）の発信
協議会会員団体担当者へ、毎月1回、活動状況についての報告メール
- ②イベント等開催時のプレスリリース適時発信
- ③歴史街道情報交換会（市町村共同事業）開催
- ④自治体、関係団体の情報交換会等への参加

(2) 一般向けの情報提供

- ①メールマガジン「DO楽」（毎月第2木曜日）の発信（配信先約6,000件）
- ②月刊「歴史街道」における記事掲載（新企画）協力
- ③CATVリレー番組「歴史街道～わたしたちのまちの歴史と文化～」放映に対する協力
- ④関西5私鉄の沿線情報誌等、会員企業の媒体での掲出
近鉄ニュース、阪急TOKK等（市町村共同事業参加自治体の優先的掲出）
- ⑤歴史街道iセンター（情報発信拠点38か所）での掲出

(3) 協議会会員団体の持つ媒体との連携

会員団体支援のもと、各団体の持つ様々な媒体との連携広報活動を行う。

- ①会員団体HPへの協議会ロゴ（含歴史街道計画を応援しています）の掲出
依頼

②各社のイントラネット、社内報、PR誌などでの協力依頼

(4) 歴史街道 i センターの活性化

歴史街道 i センターを歴史街道の情報拠点として、継続して活用する。
定期的訪問等により情報発信ポイントとしての維持・活性化を図る。

※歴史街道 i センターの機能

- ・歴史街道情報の提供
- ・歴史街道の主催、後援等の事業パンフレット、チラシの配布
- ・歴史街道スタンプラリー景品の引き換え
- ・会員団体の観光パンフレットの配布
- ・歴史街道のぼりの掲出（協力いただける施設のみ）
- ・歴史街道案内映像の上映（協力いただける施設のみ）

(5) 会員団体等実施事業への後援・協力

会員団体、関係団体が開催する歴史・文化に資する活動に対して積極的に後援・協力を行い、後援イベント等の告知チラシの配布協力など広報効果を増やす。（目標件数130件 ※前年度117件、前々年度109件）

(6) 歴史街道シンボルステッカーならびに Welcome ボードのメンテナンス

(7) マス媒体への企画提案

マスコミに対して、協議会の事業理解と共同企画の実現を働きかける。

2. 広報ツールの強化

(1) 協議会ホームページの有効活用

- ①事業進捗に応じたリアルタイムの更新
- ②地域の歴史文化情報の継続的発信

(2) 多言語化対応動画の制作・活用

- ・YouTube「旅の星」のライブラリーの充実

(3) デジタルネットワーク型広報の強化

- ・Facebook、Instagram（インスタグラム）、メールマガジンの継続

(4) 広報ツールの作成、展示・配布

- ①外国語版関西世界遺産パンフレットの制作（関西広域連合共催）
- ②ウェブ版「歴史文化遺産の楽しみ方 in 関西」の改訂

3. 他団体との連携強化による広報面での相乗効果追求

広報面での相乗効果を図るため、他団体（会員・非会員を問わず）との連携（共催、協力、後援等）を強化し、広報力を高める。

<連携候補団体>

- (1) 大阪・奈良歴史街道リレーウォーク実行委員会
- (2) 大阪あそ歩会
- (3) 日本ライフロンクススポーツ協会（フォトロゲイニング）
- (4) 日本フォトロゲイニング協会
- (5) 関西・大学ミュージアムネットワーク連携実行委員会
大阪・滋賀・奈良・兵庫・和歌山 17大学
- (6) 京都・大学ミュージアム連携運営委員会
京都市内14大学

4. 首都圏広報の強化

首都圏でのフォーラムや展示会の定例開催や広報物等を定例配布することで、首都圏での情報発信力を高める。

- (1) 歴史・文化フォーラム開催
 - ・令和3年2月13日（土）
 - ・会場：銀座ブロッサムホール（客席数900：東京都中央区銀座）
- (2) 東京都立中央図書館（東京都港区南麻布）との共催事業を展開
- (3) 首都圏公共図書館への『歴史の旅人』配架の推進

予算 8,160 千円（R 元：7,440 千円）

VII. 各種の受託研究・受託事業などの実施

観光庁を始めとした行政・各種財団等が公募する受託事業、助成事業等獲得に取組み、事業化を図る。

受託事業予算 500 千円（R 元：1,150 千円）

助成金事業予算 5,000 千円（R 元：2,500 千円）

VIII. 協議会運営

（事業目的・方針）

- ・各会員団体にこれまで以上に参画意識を高めていただき、公正でオープンな協議会運営を目指す。
- ・地域の情報収集を図るべく、会議・勉強会・研修など各種会合を充実させる。

（事業項目）

1. 組織体制の強化、会議体運営

- (1) 協議会事務局組織体制の強化

事務局スタッフの充実強化

- ・会員企業等へ出向職員要請を引続き行なう一方、専門職の契約社員の採用等により事務局機能の強化を図る。

(2) 会議体運営

- | | |
|-----------|---------------------------------|
| ①総会・理事会 | 1回（6月9日（火）：書面開催） |
| ②幹事会 | 1回（5月19日（火）：書面開催） |
| ③専門部会 | 適宜 |
| ④全体会議 | 2回（4月23日（木）：書面開催
9月～10月頃を予定） |
| ⑤勉強会 | 適宜 |
| ⑥現地見学会の実施 | 1回（10月～11月頃を予定） |

(3) 歴史街道第10期計画の策定について

- ・今年度は、第9期計画の最終年度に当たることから、第9期計画の成果と課題を令和2年度末に総括する。
- ・令和3年度から3ヶ年の事業指針となる「歴史街道第10期計画」の事業戦略（事業の定義、事業目標、事業方針等）について専門部会、幹事会等で審議し、全体会議に検討案を報告する。

予算 400千円（R元:400千円）

2. 事業推進

I～VIの事業を推進する。

予算 300千円（R元:300千円）

3. 会員維持・増強及び会員との交流機会の拡大

- (1) 法人会員の拡大に取り組む
- (2) 会員との交流の機会を拡げ、法人会員との連携・協力を努める。
- (3) 会員を対象とした勉強会や現地見学会等の充実を図る。

予算 300千円（R元:300千円）

4. 要望・提案活動への取り組み

- (1) 歴史街道の理念に沿った事業への広報協力金の拡大や公募事業等への積極的な取り組みを行う。
- (2) 歴史街道計画の推進に必要な、国・自治体・企業等との連携事業については、関係団体に積極的に働きかけ、事業の推進にあたる。

- (3) 「企画提案型事業」については、会員企業等へ、今まで以上に提案していく。
- (4) 2020年東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスターズゲームズ2021、2025年大阪・関西万博開催に向け、インバウンドを意識した企画提案や運営に積極的に協力していく。
- (5) 一般社団法人関西観光本部への参画
 関西広域での観光客誘致の推進を目的とした広域連携DMO「関西観光本部」に官民連携団体として参画していく。
- (6) 文化庁の京都移転に伴う関西全体での気運醸成のための企画について、関西広域連合や関西経済連合会等と連携し、積極的に取り組んでいく。

予算 50 千円 (R 元:50 千円)

令和2年度 事業支出予算(案) (単位：千円)

I	メインルート事業	5,670
II	ネットワークエリア事業	700
III	日本文化体感プログラム事業	4,000
IV	フォーラム、展示事業	2,750
V	歴史街道倶楽部事業	10,520
VI	広報	8,160
VII	各種の受託研究・受託事業など	500
	助成金事業	5,000
計		37,300

VIII-1	組織体制の強化、会議体運営	400
-2	事業推進	300
-3	会員維持・増強及び会員との交流機会の拡大	300
-4	要望・提案・連携活動への取り組み	50
計		1,050

合 計 38,350

(R 元: 45,640)

令和2年度収支予算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位:円)

科 目	2年度予算額(a)	元年度予算額(b)	増減(a-b)
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①特定資産運用収入	0	2,000	△ 2,000
②会 費 収 入	41,365,000	49,655,000	△ 8,290,000
会費収入	30,845,000	32,635,000	△ 1,790,000
個人会員会費収入	10,520,000	17,020,000	△ 6,500,000
③事 業 収 入	500,000	1,150,000	△ 650,000
受託事業収入	500,000	1,150,000	△ 650,000
④負 担 金 収 入	17,900,000	19,000,000	△ 1,100,000
広報協力金収入	16,250,000	16,750,000	△ 500,000
共同イベント負担金収入	1,650,000	2,250,000	△ 600,000
⑤雑 収 入	7,725,000	9,153,000	△ 1,428,000
事業活動収入計	67,490,000	78,960,000	△ 11,470,000
2. 事業活動支出			
①事 業 費 支 出	50,940,000	60,580,000	△ 9,640,000
会 議 費	1,000,000	1,000,000	0
要 望 活 動 費	50,000	50,000	0
広 報 費	37,300,000	44,590,000	△ 7,290,000
給 料 手 当	9,500,000	11,600,000	△ 2,100,000
福 利 厚 生 費	2,300,000	2,500,000	△ 200,000
旅 費 交 通 費	790,000	840,000	△ 50,000
②管 理 費 支 出	14,770,000	16,110,000	△ 1,340,000
給 料 手 当	0	0	0
福 利 厚 生 費	250,000	280,000	△ 30,000
旅 費 交 通 費	740,000	750,000	△ 10,000
通 信 費	800,000	1,150,000	△ 350,000
消 耗 品 費	4,120,000	4,270,000	△ 150,000
交 際 費	0	0	0
新 聞 図 書 費	0	0	0
賃 借 料	7,320,000	7,200,000	120,000
水 道 光 熱 費	280,000	280,000	0
租 税 公 課	500,000	500,000	0
事 務 雑 費	760,000	1,680,000	△ 920,000
事業活動支出計	65,710,000	76,690,000	△ 10,980,000
事業活動収支差額	1,780,000	2,270,000	△ 490,000
II. 投資活動収支の部			0
①投資活動支出	0	4,000,000	△ 4,000,000
退職金給付引当資産取得支出	0	4,000,000	△ 4,000,000
投資活動支出計	0	4,000,000	△ 4,000,000
投資活動収支差額	0	△ 4,000,000	4,000,000
III. 予備費支出	43,012,242	35,870,885	7,141,357
当期収支差額	△ 41,232,242	△ 37,600,885	△ 3,631,357
前期繰越収支差額	41,232,242	37,600,885	3,631,357
次期繰越収支差額	0	0	0

第9期中期計画骨子

(1) 位置づけ

各会員団体にこれまで以上に参画意識を高めていただき、当協議会の将来の在り方についての方向性を決定づけるための3カ年とする。

(2) 基本方針

当協議会の存在理由を明確にすべく歴史街道計画の原点に立ち返り、基軸となるべき“メインルート”（以下MR）の考え方を体感し得る企画・活動の構築を目指す。

第9期中期計画（3年間の取組み方針）

年度	2018年度	2019年度	2020年度
重要イベント	-	ラグビーW杯	東京オリンピック・パラリンピック
テーマ	当協議会存在理由の明確化 → メインルートを基軸とする広域官民連携による当協議会の柱となる事業の構築		
	原点回帰	チェンジ&チャレンジ	柱となる事業構築
取組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業の整理、見直し → 改廃、強化等の区分 ・新規事業の模索 → ニーズの優先順位付けと実現性考慮 → 日本文化体感プログラムの一般・観光客向け企画 ・WEB戦略見直し（HP全面改訂） 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業再スタート ・新規事業へのチャレンジ → MR6拠点映画官民広域連携事業 → 他団体等との広域連携事業 → 日本文化体感プログラムの一般・観光客向け事業 ・新WEB戦略展開 	<p>各種展開事業の中から、国内向けとインバウンド向けに主力事業となりうるものをそれぞれ絞り込み、拡大・強化する。</p>
	他団体との連携（共催、協力、後援等）を最大限強化		
	事務局のマンパワー及び健全財政の維持		
付帯重要案件	歴史街道シンボルステッカー（1,500箇所）ならびにWelcomeボード（77駅125箇所）のメンテナンス 会員団体HPでの「歴史街道計画を応援しています」バナーの掲出（特に自治体関連の観光協会やそれら類似団体のHP）		

第9期（2018～2020年度における事業推進区分）

歴史街道計画の3つの目標



第9期事業区分	
・メインルート事業	広報
・ネットワーク事業	
・日本文化体感プログラム事業	
・フォーラム、展示事業	
・歴史街道倶楽部事業	